

シリオレギセルの畸形について

Malformation of the land snail *Tyrannophaedusa bilabrata*

横井 敦史

愛知みずほ大学人間科学部

Atsushi YOKOI

Faculty of Human Sciences, Aichi Mizuho College

キーワード：畸形，陸貝，シリオレギセル，熱田神宮

Keyword : malformation, land snail, *Tyrannophaedusa bilabrata*, Atsuta Shrine.

はじめに

2020年2月28日に熱田神宮（愛知県名古屋市長熱田区神宮1-1-1）において「レッドデータブックなごや」の貝類調査を実施したところ、シリオレギセルの畸形個体を発見したので報告する。

陸産貝類の畸形については、ツルガマイマイ（http://www.shikoku-np.co.jp/national/life_topic/20080705000282）、イセノナミマイマイ（松岡，1990）や *Helix aspersa* (Abbott, 1989) などの記録があるが、陸産貝類の畸形の報告事例は全国的に少ない。

熱田神宮のシリオレギセル

Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) bilabrata シリオレギセルは、肥後・後藤（1993）によれば、越前・岐阜県以西、近畿地方、中国地方、四国、九州（南部野間岳まで）及びその附属島嶼に分布するとされている。熱田神宮では2011年に初めて発見されており、愛知県は本種の分布域ではないことから、国内移入種と考えられている（川瀬，2012）。

2011年に愛知県で最初に発見された時は、熱田神宮内の楠之御前社付近の雑木林谷筋の倒木の裏側から10個体程度が確認されたに過ぎないが、今回の調査では同一地点において比較的容易に100個体程度を確認することができた。他にはアズキガイ、ナミコギセル、ナメクジ、イセノナミマイマイなどが同所的に発見さ

れた。主に朽ち木倒木の下側のリター層や腐葉土層から越冬している個体群を発見した。

また、東門付近の雑木林内の朽ち木倒木の裏側からもシリオレギセルの生貝を複数個体確認できた。

畸形個体について

シリオレギセルの畸形個体は、楠之御前社付近の雑木林谷筋から発見された。正常個体に比べて体層が肥大しており、殻口付近が体層から外れるように変形し、殻口の少し手前で括れるように殻が狭くなっていた。殻高は殻頂付近のわずかな破損部分を除いて26.4mmであった。

100個体程度の個体を確認したが畸形個体は1個体のみであった。朽ち木倒木の裏側に付着していたため、しばらく観察したところ移動を始めた。

まとめ

シリオレギセルは2011年に比較して熱田神宮内の棲息個体数が増え、分布を拡大していることから確実に定着し繁殖を繰り返していることが明らかになった。また、畸形個体は、殻形成の終わり頃（体層付近形成時）から殻の巻き方が異常になっているため、先天的な要因によるものではなく後天的な要因による可能性が高い。

引用文献

Abbott, R. T. (1989) *Compendium of Landshells*, 1-240, American Malacologists Inc. Melbourne, FL and Berlington, MA.

肥後俊一・後藤芳央 (1993) : 日本及び周辺地域産軟体動物総目録, 1-693, エル貝類出版局.

川瀬基弘 (2012) 名古屋市内で確認されたシリオレギセルとヒルゲンドルフマイマイ, かきつばた, 37, 52.

松岡敬二 (1990) : 貝類の世界, 1-23, 図版 1-24, 豊橋市自然史博物館.



写真 1. シリオレギセルの畸形, 生態



写真 2. シリオレギセルの畸形標本



写真 3. シリオレギセルの正常個体



写真 4. シリオレギセルの正常個体



写真 5. 畸形部位の側面拡大



写真 6. 畸形部位の正面拡大